

## 平成25年度 附属学校研究支援経費による研究成果概要報告書

報告者氏名・所属	北海道教育大学附属旭川小学校 主幹教諭 米津 洋伸		
研究期間	平成25年 7月 ～ 平成 26年 1月		
プロジェクトの名称	豊かな音楽表現・鑑賞プロジェクト ～美しい音と映像で児童の音楽性を高める指導方法の具体化～		
プロジェクト担当者 (氏名・所属・職) ※代表者に○を付す こと	附属学校教員 (氏名)	所属部局・職名	担当分担
	◎米津 洋伸 小山 和歌子	主幹教諭 教諭	研究計画の企画・立案・総括 研究計画 の企画・立案・補佐
	大学教員 (氏名) ※	学校名・職名	担当分担
	杉江 光 佐藤 淳一	旭川校教授 旭川校講師	研究実践の指導・評価・分析 研究実践 の指導・評価・分析
成 果 の 概 要			
<p>本校の特色の一つに、音楽専科による音楽教育があげられる。専科での学習を進めていくことで、日常的な音楽科の学習の充実はもとより、音楽フェスティバル(音楽集会)、入学式、教育研究大会、学芸発表会、卒業式など、様々な機会においてその成果を発表し大きな成果を上げてきているところである。本プロジェクトは、本校の特色を生かし、これまで以上に、音楽のよさを感じ取り、思いや意図をもって表現したり音楽全体を味わって鑑賞したりする力の育成や、音楽文化を理解し、豊かな情操を養うことを重視するものとして以下のような視点で研究を進めてきた。</p> <p>■最新の視聴覚機器の活用について、研究・実践を図る。</p> <p>今回研究として取り上げたのは、高音質のスピーカー(JBL4312E)を活用し、鑑賞活動の充実を図ることを主軸として行っている。</p> <p>本校においては、iPadを活用して学習を進めることができるネットワーク環境が整備されている。そこに、スピーカーシステムとエアプレイを経由したiPadを接続し、臨場感あふれるスピーカーからの鑑賞活動を通して、一人一人の子供が自分のお気に入りの場面を紹介し合う学習を構想し実践した。</p> <p>高音質のスピーカーを活用することで、これまでのスピーカーでは聴こえにくかった各旋律の動きや和声の重なり、各楽器の音色の聴き分けなど、より明確に聴き取ることができるようになった。また、一人一人に持たせたiPadと接続を図ることで、楽曲の中で一人一人の好きな場面を共有し、音楽がもつ美しさや面白さを共感しながら、鑑賞する姿をみることもできた。</p> <p>また、子供の鑑賞活動を終えての感想の中からは、「演奏者一人一人の息遣いまで伝わってくる」「演奏者の動きが思い浮かぶ」など実際の様子を思い浮かべた反応と「音楽が表わす様子や思いが伝わってくる」「力強い場面と優しい繊細な場面の違いを音の強弱だけではなく、音楽そのものから感じ取ることができた」など、情景を感じ取る反応も見取ることができた。</p> <p>また、合唱の学習に対しても大きな影響を与えている。これまで、全体的に聞こえていた音質が、それぞれのパートまで明確に聴きとれる音質に変わったことで、児童の音取り(曲覚え)がこれまでより早くなっている。また、ハーモニーの聞き取りも以前に増して力がついてきている要因に音質の向上が大きくかかわっていると考える。</p> <p>今後、鑑賞活動をより充実していくうえで課題になるのが視覚を伴った鑑賞活動である。現在、音楽室のTVモニターは40インチであり、子供たちが教室で画像を通して鑑賞活動を進めるには少しサイズが小さい状況である。</p> <p>今後、60インチ以上のより大きなモニターを導入し、より充実した映像と音環境の中で学習活動を進めていくことで、よりよい豊かな音楽表現、鑑賞プロジェクトの環境研究を進めていくことができるのではないかと期待している。</p>			
成 果 の 公 表 の 状 況			
<p>校内研究授業にて、公立学校の音楽専門の教員の参加を募り、公開を行った。</p> <p>また、平成26年度北海道教育大学附属旭川小学校教育研究大会にて旭川市、北海道はもとより、全国の先生方に向けて研究発表を行う予定である。</p>			
教育現場で活用可能な分野等			
各校における音楽教育(鑑賞)研究はもちろん、最新機器の活用方法を含めた視聴覚研修な			

ど、現職教員が研修を行う際に利用可能である。  
また、本校教育研究大会はもとより、旭川市教育研究会、全道、全国などの各音楽教育研究会などでも環境の充実を伝える場面を作っていきたい。

配付可能な資料の有無	無し
ダウンロード可能なドキュメント	無し
問い合わせ先	責任者：北海道教育大学附属旭川小学校 主幹教諭 米津洋伸 電 話：0166-52-3261 FAX : 0166-52-2363 mail : yonetsu.hironobu@a.hokkyodai.ac.jp